

大容量ファイル添付時に発生するエラー対応について

平成21年10月16日更新

平成21年 6月26日

コアシステムサービスセンタ

〇はじめに

コアシステムを利用する際に添付するファイルにおいて、大容量のファイルを添付する場合、ご使用のクライアント環境によって以下のようなエラーダイアログ、エラーログが表示される場合があります。

【エラーダイアログ】



【エラーログ】

```
20XX-XX-XXXXXX:XXX - [APPLET-CRITICAL-00400504-19999]
実行エラーが発生しました。
jp.co.nec.ome.plugin.applet.OmAppletRuntimeException: APPLET-CRITICAL-00400504-19999: 実行エラーが発生しました。
--- Cause Exception is...
java.lang.OutOfMemoryError: Java heap space
    at java.lang.AbstractStringBuilder.expandCapacity(Unknown Source)
    at java.lang.AbstractStringBuilder.append(Unknown Source)
    at java.lang.StringBuffer.append(Unknown Source)
    .
    .
    .
```

この現象は大容量ファイル添付時に使用するメモリ量が、コアシステム利用時の **JRE** によって確保されるメモリサイズを上回ってしまった場合に発生します。**JRE** によって自動的に確保されるメモリサイズはご使用のクライアント環境によって異なりますので、エラーが発生する際には **JRE** のメモリサイズを拡張して確保する必要があります。

本手順書では、**JRE** が確保する最大メモリサイズを拡張する手順を紹介します。

なお、利用可能な **JRE** のバージョンについては、各認証局のホームページ等でご確認ください。

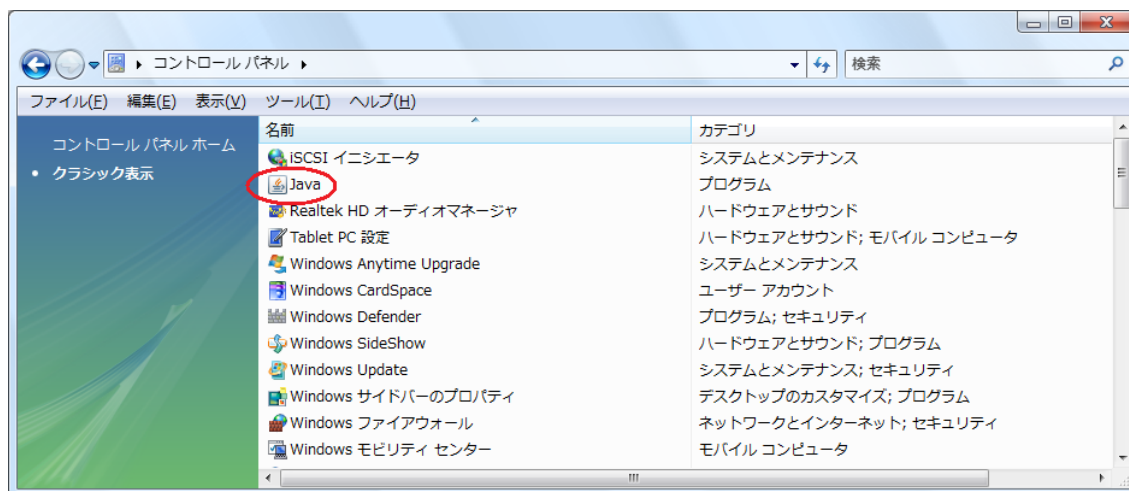
○設定手順

注：以下に示す手順については、コアシステムを実行しているブラウザを全て終了している状態で設定を行ってください。

【1】 JRE6.0 Update xx の場合

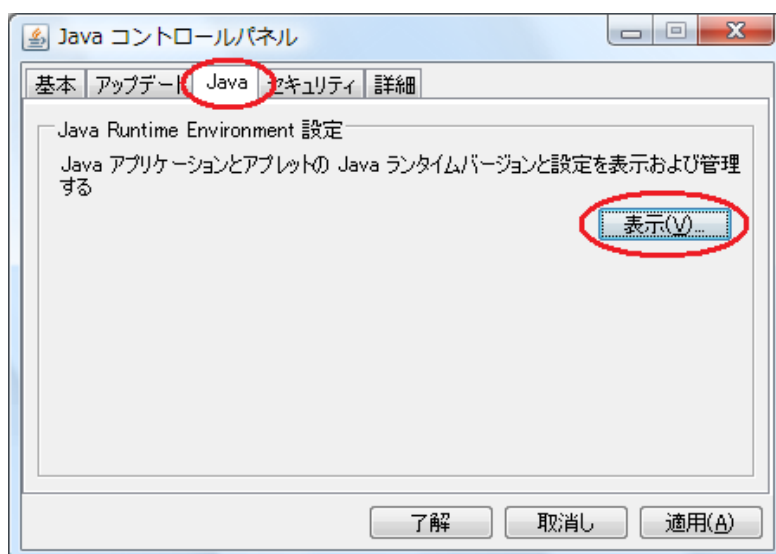
(1) [Java コントロールパネル]を開きます。

[スタート]—[コントロールパネル]を開き、[Java]のアイコンをダブルクリックします。



(2) [Java Runtime Environment 設定]を開きます。

表示された[Java コントロールパネル]の[Java]タブから[Java Runtime Environment]の[表示]を選択します。



(3) 確保するメモリサイズを設定します。

[Java Runtime Environment 設定]より、[ランタイムパラメータ]欄内に「-Xmx〇〇m」と入力します。画面例では 512MB を指定していますが、ご使用のクライアント環境のメモリサイズを考慮し、設定してください。



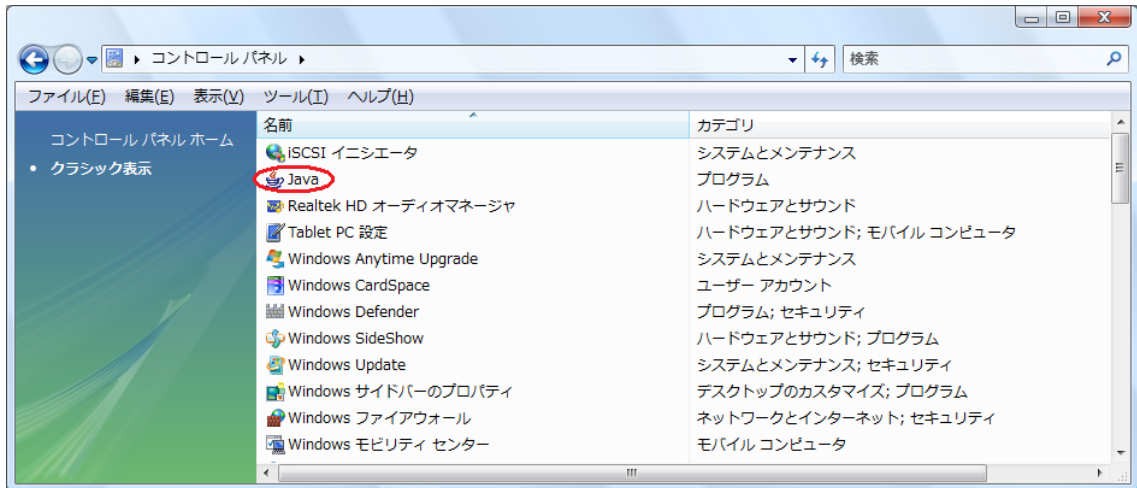
ランタイムパラメータの設定後、[了解]を選択し、設定を有効にします。

注：上記の画面例は JRE6.0 Update14 のものです。JRE6.0 Update7 以前の場合、上記の画面例と画面構成が若干異なっておりますが、選択する項目及び入力内容は同一となります。

【2】 JRE5.0 Update xx の場合

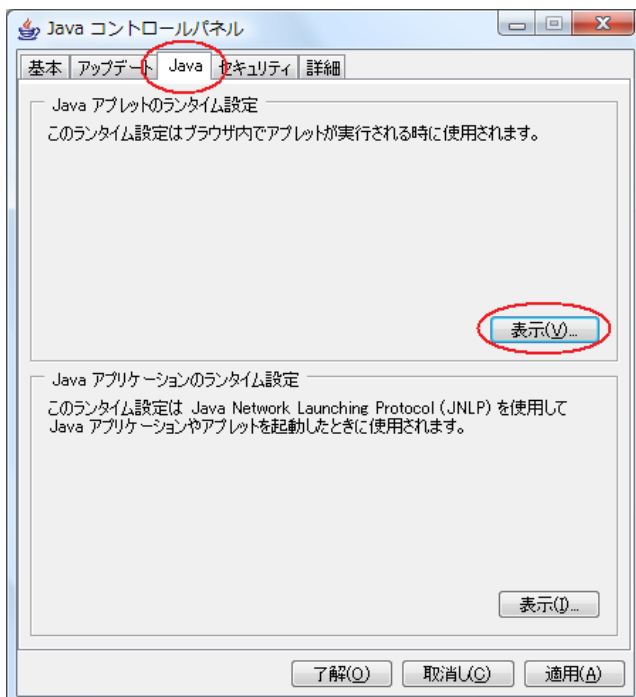
(1) [Java コントロールパネル]を開きます。

[スタート]—[コントロールパネル]を開き、[Java]のアイコンをダブルクリックします。



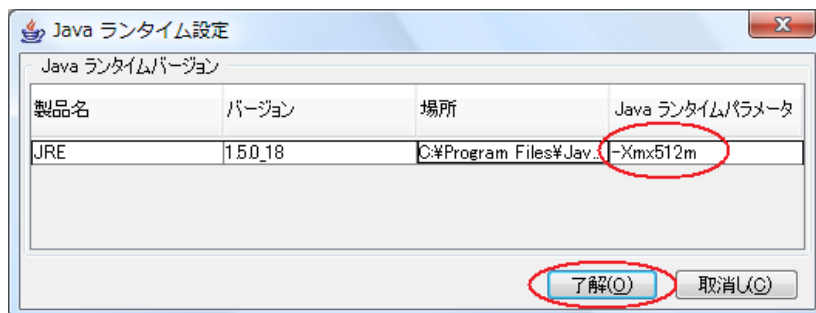
(2) [Java ランタイム設定]を開きます。

表示された Java コントロールパネルの[Java]タブから[Java アプレットのランタイム設定]の[表示]を選択します。



(3) 確保するメモリサイズを設定します。

[Java ランタイム設定]より、[Java ランタイムパラメータ]欄内に「-Xmx〇〇m」と入力します。画面例では 512MB を指定していますが、ご使用のクライアント環境のメモリサイズを考慮し、設定してください。

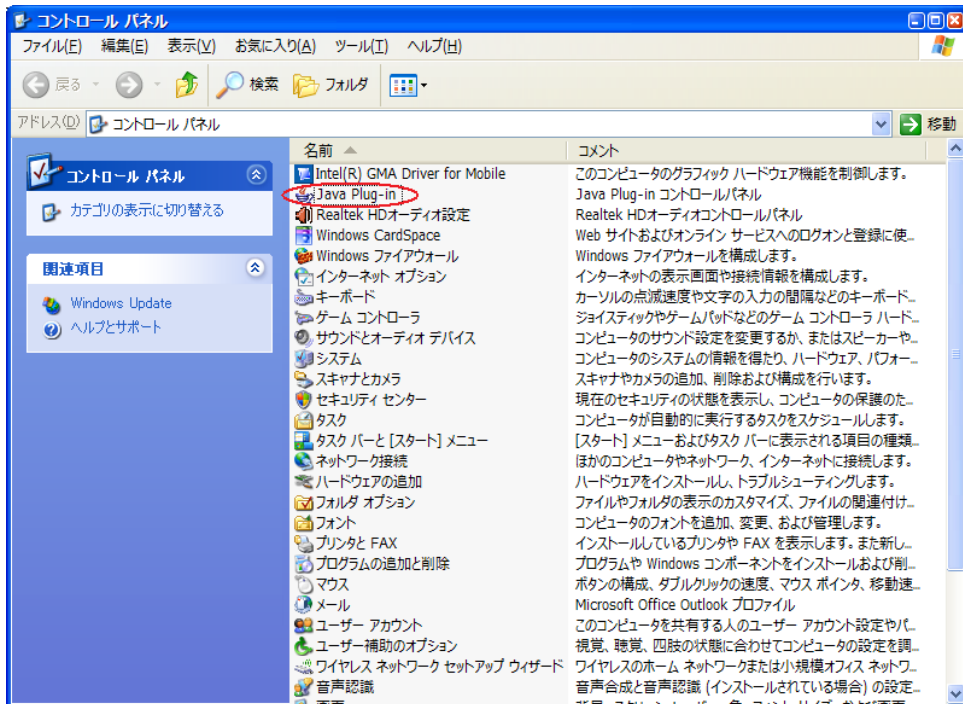


ランタイムパラメータの設定後、[了解]を選択し、設定を有効にします。

【3】 JRE1.4.2_xx の場合

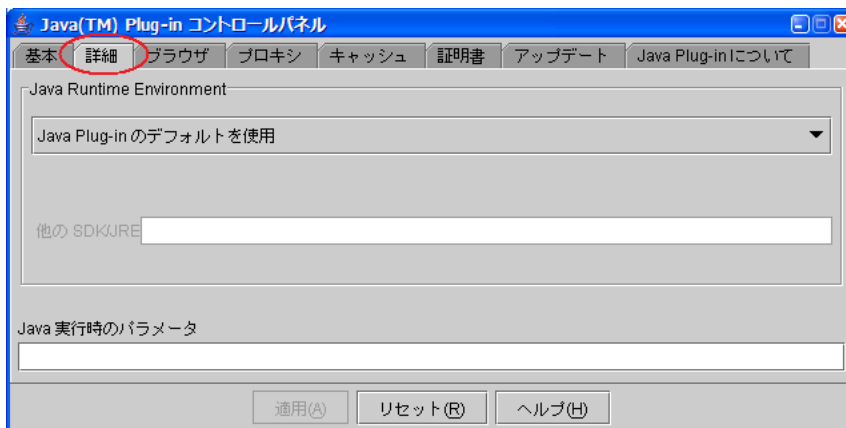
(1) [Java コントロールパネル]を開きます。

[スタート]—[コントロールパネル]を開き、[Java Plug-in]のアイコンをダブルクリックします。



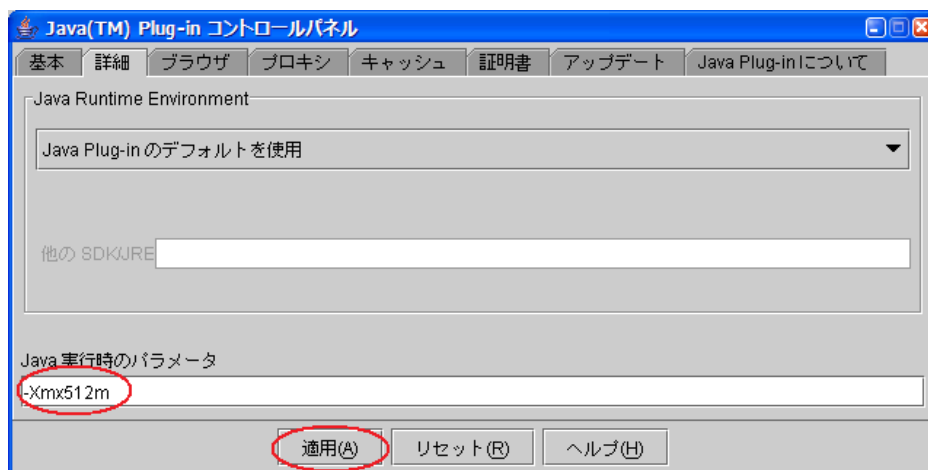
(2) [詳細]タブを開きます。

表示された[Java(TM) Plug-in コントロールパネル]の[詳細]タブを選択します。



(3) 確保するメモリサイズを設定します。

[詳細]タブより、[Java 実行時のパラメータ]欄内に「-Xmx〇〇m」と入力します。画面例では512MBを指定していますが、ご使用のクライアント環境のメモリサイズを考慮し、設定してください。



Java 実行時のパラメータの設定後、[適用]を選択し、設定を有効にします。

○補足（設定値の目安について）

サービスセンタでは、以下に示します大容量ファイル添付の送信結果を確認しております。JRE が確保する最大メモリサイズ設定の際のご参考になさってください。

常駐ソフト等によるメモリサイズ占有などご使用のクライアント環境に依存する要素もありますことをご留意ください。

[動作確認環境]

添付ファイル

- ・約 3MB（ZIP 圧縮後）

クライアントハードウェア

- ・CPU：Celeron 1.2GHz
- ・搭載メモリ：512MB

クライアントソフトウェア

- ・OS：Windows 2000 Professional SP4
- ・ブラウザ：Internet Explorer 6.0 SP1
- ・JRE：6.0 Update16

JRE が確保する最大メモリサイズ

- ①256MB（-Xmx256m）
- ②128MB（-Xmx128m）
- ③ 64MB（-Xmx64m）

の 3 パターンで動作確認

[動作確認結果]

JRE が確保する最大メモリサイズによって以下の結果を確認しております。

- ①256MB → 失敗（コアシステムクライアント起動エラー）
- ②128MB → 成功（ファイル添付送信成功）
- ③ 64MB → 失敗（ファイル添付送信時エラー）

なお、クライアントの搭載メモリが 256MB の場合、JRE が確保する最大メモリサイズ設定を行ってもコアシステムクライアント機能が起動しない、もしくは大容量ファイルの添付送信が行えない現象が発生する可能性があります。

このため、大容量ファイルを添付する場合、クライアントの搭載メモリに関しては、電子入札コアシステム推奨稼働環境で定義している推奨サイズである 512MB 以上実装していただくことを推奨します。

以上